



AVアンプ

AVC-S35

CinemaStation

保証書別添付

ヤマハAVアンプAVC-S35をお買い上げいただきまして、
まことにありがとうございます。

- 本機の優れた性能を十分に発揮させると共に、永年支障なくお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書と保証書をよくお読みください。お読みになったあとは、保証書と共に大切に保管し、必要に応じてご利用ください。
- 保証書は、「お買い上げ日、販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

取扱説明書

ヤマハでは、製品をご購入いただきましたお客様へのサポート・サービスの充実を図るため、「お客様登録」をお願いしております。

以下のオーディオ・ビジュアルホームページからご登録ください。

<http://www.yamaha.co.jp/audio/>

上記URLから、オンラインユーザー登録へお進みください。

安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様や他の方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

	「ご注意ください」という注意喚起を示します。
	「～しないでください」という「禁止」を示します。
	「必ず実行してください」という強制を示します。

■ 「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。

⚠ 警告

この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。

⚠ 注意

この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

⚠ 警告

電源/電源コード



電源プラグは、見える位置で、手が届く範囲のコンセントに接続する。

万一の場合、電源プラグを容易に引き抜くためです。



下記の場合には、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。

- 異常ににおいや音がする。
- 異常に高温になる。
- 内部に水や異物が混入した。
- 煙が出る。

そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。



電源コードを傷つけない。

- 重いものを上に載せない。
- ステープルで止めない。
- 加工をしない。
- 熱器具には近づけない。
- 無理な力を加えない。

芯線がむき出しのまま使用すると、火災や感電の原因になります。



必ずAC100V (50/60Hz)の電源電圧で使用する。
それ以外の電源電圧で使用すると、火災や感電の原因になります。

必ず実行

電池



電池を充電しない。

電池の破裂や液もれにより火災やけがの原因になります。



電池からもれ出た液には直接触れない。

液が目や口に入ったり、皮膚についたりした場合はすぐに水で洗い流し、医師に相談してください。

分解禁止



分解・改造は厳禁。キャビネットは絶対に開けない。

火災や感電の原因になります。

修理・調整は販売店にご依頼ください。

分解禁止

設置



水ぬれ禁止

本機を下記の場所には設置しない。

- 浴室・台所・海岸・水辺
- 加湿器を過度にきかせた部屋
- 雨や雪、水がかかるところ

水の混入により、火災や感電の原因になります。



禁止

放熱のため本機を設置する際には:

- 布やテーブルクロスをかけない。
- じゅうたん・カーペットの上には設置しない。
- 仰向けには設置しない。
- 通気性の悪い狭いところへは押し込まない。
(本機の上側に10cm以上のスペースを確保する。)

本機の内部に熱がこもり、火災の原因になります。



必ず実行

スピーカーケーブルは必ず壁などに固定する。

ケーブルに足や手を引っかけるとスピーカーが落下し、故障やけがの原因になります。

使用上の注意



禁止

放熱用の通風孔やパネルのすき間から金属や紙片など異物を入れない。

火災や感電の原因になります。

⚠ 注意

電源/電源コード



プラグを抜く

長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。

火災や感電の原因になります。



ぬれ手禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。

感電の原因になります。



禁止

電源プラグを抜くときは、電源コードをひっぱらない。

コードが傷つき、火災や感電の原因になります。



必ず実行

本機を落としたり、本機が破損した場合には、必ず販売店に点検や修理を依頼する。

そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。



接触禁止

雷が鳴りはじめたら、電源プラグには触れない。

感電の原因になります。



禁止

本機の上には、花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品・ロウソクなどを置かない。

水や異物が中に入ると、火災や感電の原因になります。接触面が経年変化を起こし、本機の外装を損傷する原因になります。

手入れ



必ず実行

電源プラグのゴミやほこりは、定期的にとり除く。

ほこりがたまつたまま使用を続けると、プラグがショートして火災や感電の原因になります。



必ず実行

電源プラグは、コンセントに根元まで、確実に差し込む。

差し込みが不充分のまま使用すると感電したり、プラグにほこりが堆積して発熱や火災の原因になります。



禁止

電源プラグを差し込んだとき、ゆるみがあるコンセントは使用しない。

感電や発熱および火災の原因になります。

電池



電池は極性表示(プラス+とマイナス-)に従って、正しく入れる。
間違えると破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。



指定以外の電池は使用しない。
破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。



電池と金属片をいっしょにポケットやバッグなどに入れて携帯、保管しない。
電池がショートし、破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。



電池を加熱・分解したり、火や水の中へ入れない。
破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。



使い切った電池は、すぐに電池ケースから取り外す。
破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。



使い切った電池は、自治体の条例または取り決めに従って廃棄する。



不安定な場所や振動する場所には設置しない。
本機が落下や転倒して、けがの原因になります。



直射日光のあたる場所や、温度が異常に高くなる場所(暖房機のそばなど)には設置しない。

本機の外装が変形したり内部回路に悪影響が生じて、火災の原因になります。



ほこりや湿気の多い場所に設置しない。
ほこりの堆積によりショートして、火災や感電の原因になります。

移動



移動をするときには電源スイッチを切り、すべての接続を外す。

プラグを抜く

接続機器が落下や転倒して、けがの原因になります。
コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

使用上の注意



必ず実行

再生を始める前には、音量(ボリューム)を最小にする。

突然大きな音が出て、聴覚障害の原因になります。



必ず実行

音が歪んだ状態で長時間使用しない。

スピーカーが発熱し、火災の原因になります。



必ず実行

大きな音で長時間ヘッドホンを使用しない。

聴覚障害の原因になります。



注意

環境温度が急激に変化したとき、本機に結露が発生することがあります。

正常に動作しないときには、電源を入れない状態でしばらく放置してください。



注意

本機はデジタル信号を扱います。ほかの電気製品に障害をあたえるおそれがあります。

それらの製品とはできるだけ離して設置してください。



禁止

業務用機器とは接続しない。

デジタルオーディオインターフェース規格は、民生用と業務用では異なります。本機は民生用のデジタルオーディオインターフェースに接続する目的で設計されています。業務用のデジタルオーディオインターフェース機器との接続は、本機の故障の原因となるばかりでなく、スピーカーを傷める原因になります。

手入れ



必ず実行

手入れをするときには、必ず電源プラグを抜く。
感電の原因になります。



禁止

薬物厳禁

ベンジン・シンナー・合成洗剤等で外装をふかない。
また接点復活剤を使用しない。

外装が傷んだり、部品が溶解することがあります。



注意

年に一度くらいは内部の掃除を販売店に依頼する。

ほこりがたまつたまま使用を続けると、火災や故障の原因になります。

目次

準備する

製品構成	2
各部の名称と機能	3
フロントパネル	3
リモコン	4
スピーカーを設置する	5
スピーカーを接続する	6
外部機器を接続する	7
デジタル接続	7
アナログ接続	8
リモコンを使用する	9
リモコンの電池を交換する	9
スピーカーの構成を設定する	10

操作する

さっそく使ってみましょう！	12
音響効果を選択する	13
臨場感ある音声を楽しむ（シネマ DSP）	13
ステレオ音声をマルチチャンネルで楽しむ （ドルビープロロジック II）	13
ドルビーバーチャルスピーカーを設定する （DVS）	13
いろいろな方法で音声を楽しむ	14
ヘッドホンで音声を楽しむ （サイレントシネマ）	15
小音量で音声を楽しむ （ナイトリスニング）	15
主音声／副音声を切りかえる	15

細かく調節する

スピーカーバランスを調節する	16
テストトーンでスピーカーバランス を調節する	16
再生中にスピーカーレベルを調節する	17

その他の情報

ステータスインジケーターの表示	18
音量レベルの表示	18
入力信号の表示	18
故障かな？と思ったら	19
用語解説	21
主な仕様	22

■ はじめに

ヤマハ AV アンプ AVC-S35 をご購入いただき誠にありがとうございます。簡単操作でありながら、自然で本格的なサラウンド効果を提供する AVC-S35 で、臨場感あふれるサウンドを存分にお楽しみください。

■ 本書について

- 本書は AVC-S35 の接続および操作方法について説明しています。スピーカーや外部機器の操作方法については、各機器に付属している取扱説明書をご参照ください。
- 本書では、本体とリモコンのどちらでも操作できる場合は、リモコンでの操作を中心に記載しています。
- 「ご注意」では操作・設定を行う際に留意すべき事項、※では知っておくと便利な補足情報を記載しています。
- 本書は製品の生産に先がけて作成されたものです。製品改良などの理由で実際の製品や梱包箱と内容が一部異なる場合がございますのでご了承ください。

準備する

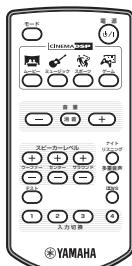
製品構成

AVC-S35 の製品構成は以下のとおりです。梱包箱を開封後、すべてそろっていることをご確認ください。

AV アンプ (AVC-S35) (1 台)

付属品

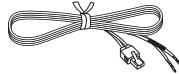
リモコン



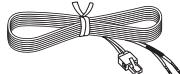
リチウム電池
(CR2025型、1個)
リモコンの中にセット
されています。



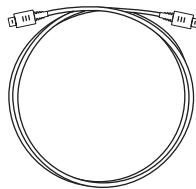
スピーカーケーブル
(フロント/センター用:
5m、3本)



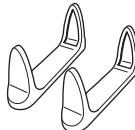
スピーカーケーブル
(サラウンド用:
15m、2本)



光ファイバーケーブル
(60cm、1本)



縦置きスタンド (2 個)

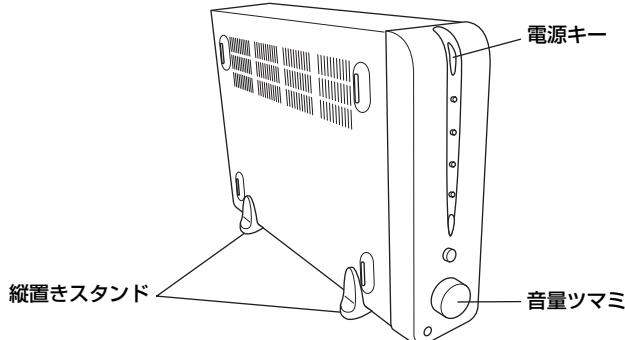


取扱説明書 (本書)



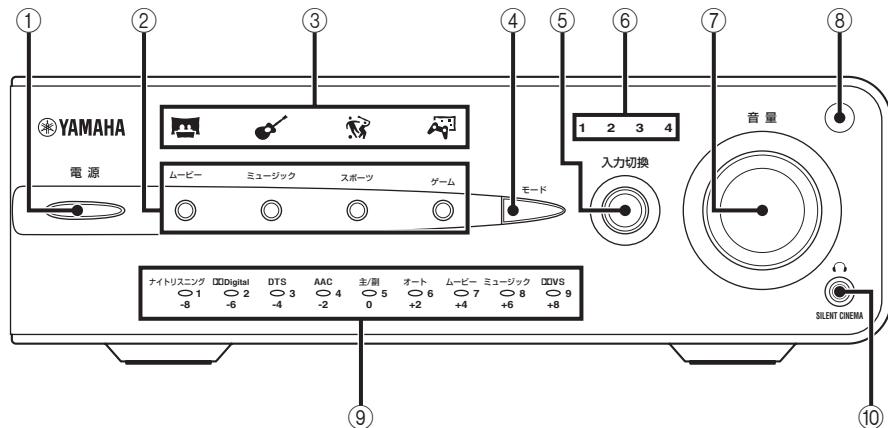
※

付属の縦置きスタンドを使用すると、AV アンプを縦に設置することができます。(下図のように、電源キーが上側、音量ツマミが下側になるように設置してください。)



各部の名称と機能

■ フロントパネル



① 電源キー

本機の電源（オン／スタンバイ）を切りかえます。



スタンバイ時には少量の電力を消費します。

② シネマ DSP キー

お好みのシネマ DSP を選択します。（→ 13 ページ）

③ シネマ DSP インジケーター

選択しているシネマ DSP のインジケーターが点灯します。（→ 13 ページ）

④ モードキー

ドルビープロロジック II のモードを選択します。（→ 13 ページ）

テストトーン出力時に押すと、スピーカー構成の設定が切りかわります。（→ 10 ページ）

⑤ 入力切換キー

入力を切りかえます。

⑥ 入力インジケーター

選択している入力の番号が点灯します。

⑦ 音量ツマミ

全体の音量を調節します。

⑧ リモコン受光窓

リモコンの信号を受信します。

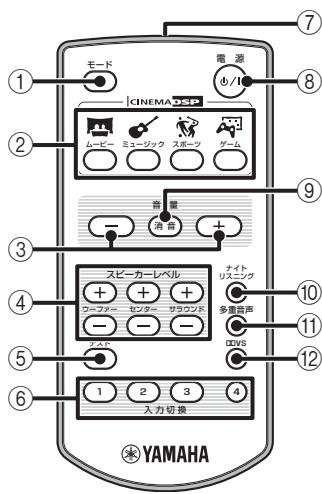
⑨ ステータスインジケーター

入力している音声信号の種類（→ 18 ページ）や選択しているドルビープロロジック II のモード（→ 13 ページ）が点灯します。また音量レベル調節時には音量レベル（→ 18 ページ）を表示します。

⑩ サイレント CINEMA 端子

ヘッドホンを接続します。（→ 15 ページ）

■ リモコン



① モードキー

ドルビープロロジック II のモードを選択します。
(→ 13 ページ)

② シネマ DSP キー

お好みのシネマ DSP を選択します。
(→ 13 ページ)

③ 音量 + / - キー

全体の音量を調節します。

④ スピーカーレベルキー

スピーカーバランス (各スピーカーの音量) を調節します。
(→ 17 ページ)

ウーファー + / - キー：サブウーファーの音量を調節します。

センター + / - キー：センタースピーカーの音量を調節します。

サラウンド + / - キー：サラウンドスピーカーの音量を調節します。

⑤ テストキー

テストトーンを出力します。
(→ 16 ページ)

⑥ 入力切換キー

入力を切り替えます。

⑦ 赤外線送信部

リモコンの信号を本体に送信します。

⑧ 電源 (P/I) キー

本機の電源 (オン／スタンバイ) を切り替えます。



スタンバイ時には少量の電力を消費します。

⑨ 消音キー

消音します。消音を解除するには、再度消音キーを押します。

⑩ ナイトリスニングキー

ナイトリスニングモードを設定します。
(→ 15 ページ)

⑪ 多重音声キー

BS／地上波デジタル放送などで使われている、モノラル二重音声入力時に、本機が出力する音声 (主音声／副音声) を選択します。
(→ 15 ページ)

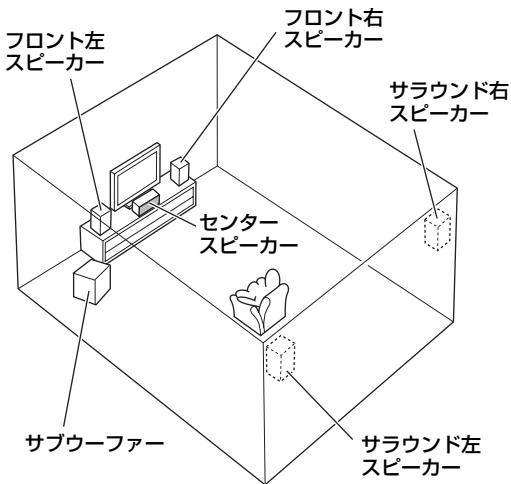
⑫ DVS (Dolby Virtual Speaker) キー

DVS の設定を切り替えます。
(→ 14 ページ)

スピーカーを設置する

臨場感あるサウンドを十分にお楽しみいただくためには、スピーカーを安定した場所に適切に設置する必要があります。使用するスピーカーの種類に応じて、下記を参考に設置してください。なお、スピーカーの設置方法について詳しくは、ご使用のスピーカーに付属している取扱説明書をご参照ください。

5.1 チャンネルで使用する場合の設置例



センタースピーカー

テレビやモニターの中心線上に設置します。
主に会話やボーカルなど画面中央に定位する音を出力します。

フロントスピーカー（左、右）

テレビを中心に、左右に同じ距離で設置します。
主にフロントチャンネル（ステレオ）の音と効果音を出力します。

サラウンドスピーカー（左、右）

視聴位置の斜め後方で、視聴するときの耳の高さ（壁にかける場合、高さ約1.5～1.8mの位置）に設置するのが理想的です。
主にサラウンド音と効果音を出力します。

サブウーファー

左右どちらか前方の壁側に設置します。壁の反射を防ぐため、少し内側に向けて設置してください。
主に低音を強調して出力します。

ご注意

- インピーダンスが6Ω以上のスピーカーをご使用ください。インピーダンスが6Ω未満のスピーカーを使用すると、保護回路の作動や故障の原因となります。
- 防磁型スピーカーをご使用ください。防磁型以外のスピーカーを使用すると、テレビ画面の映像が乱れることがあります。防磁型スピーカーを使用していてもテレビ画面の映像が乱れる場合は、スピーカーとテレビを離して設置してください。
- スピーカーはなるべくメーカーおよび音質が同一のものをご使用ください。使用するスピーカーの音質が異なると、特定の出力音が不自然に変化することがあります。
- テレビやモニターの映像が乱れる場合は、スピーカーをテレビやモニターから離して設置してください。
- サブウーファーが出力する低音の聴こえ方は、視聴する位置とサブウーファーの設置位置の両方に影響されます。視聴する位置に応じて、設置位置をいろいろ変えてお試しください。
- 使用するスピーカーの本数および種類に応じて、スピーカー構成の設定を変更してください（→10ページ）。これにより、環境に応じた最適な再生が可能になります。

スピーカーを接続する

使用する各スピーカーを本機に接続します。下図を参考のうえ、正しい位置に接続してください。

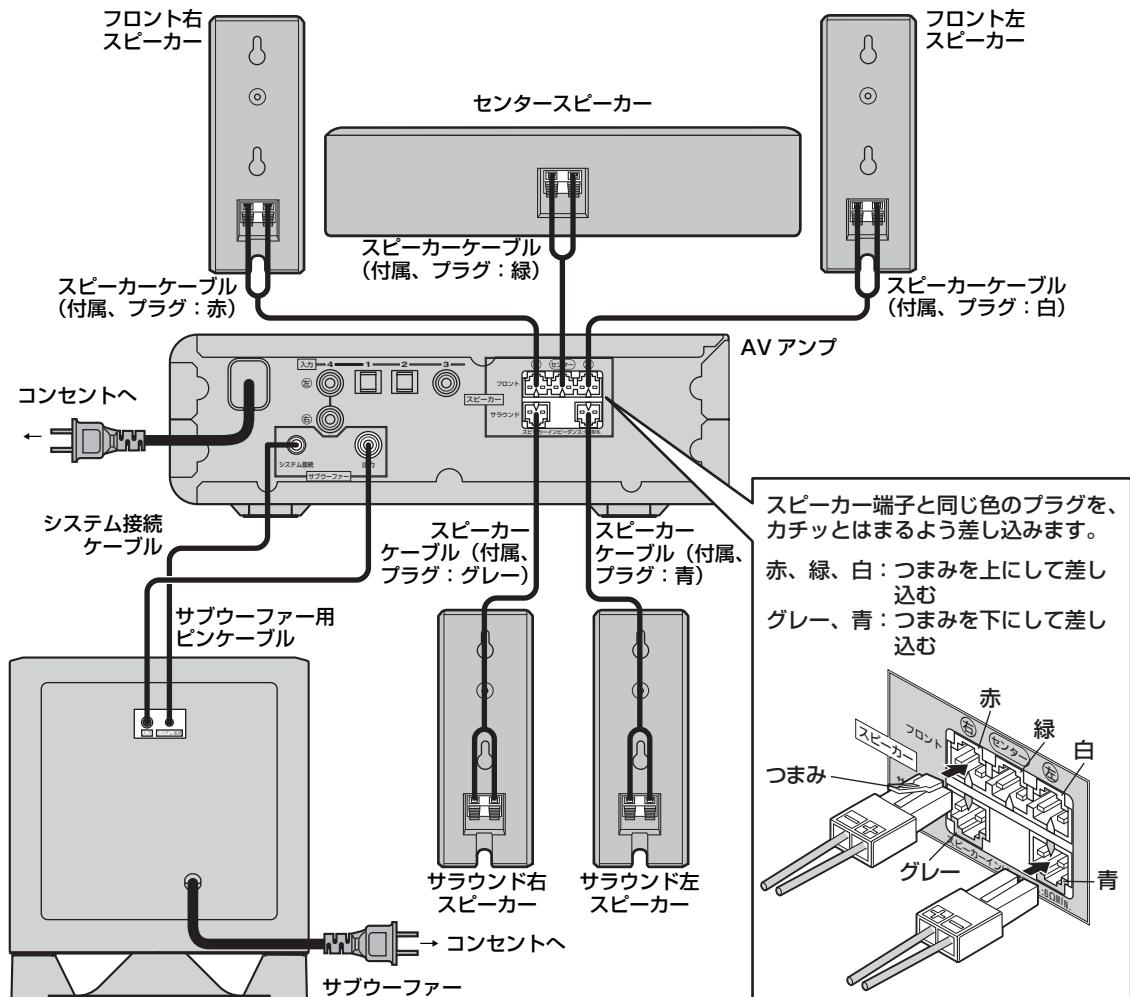
使用するスピーカーの本数および種類に応じて、スピーカー構成の設定を変更してください(→10ページ)。これにより、環境に応じた最適な再生が可能になります。本機は以下のスピーカー構成に対応しています。

5.1 チャンネル：フロント左／右、センター、サラウンド左／右、サブウーファー

3.1 チャンネル：フロント左／右、センター、サブウーファー

2.1 チャンネル：フロント左／右、サブウーファー

2 チャンネル：フロント左／右



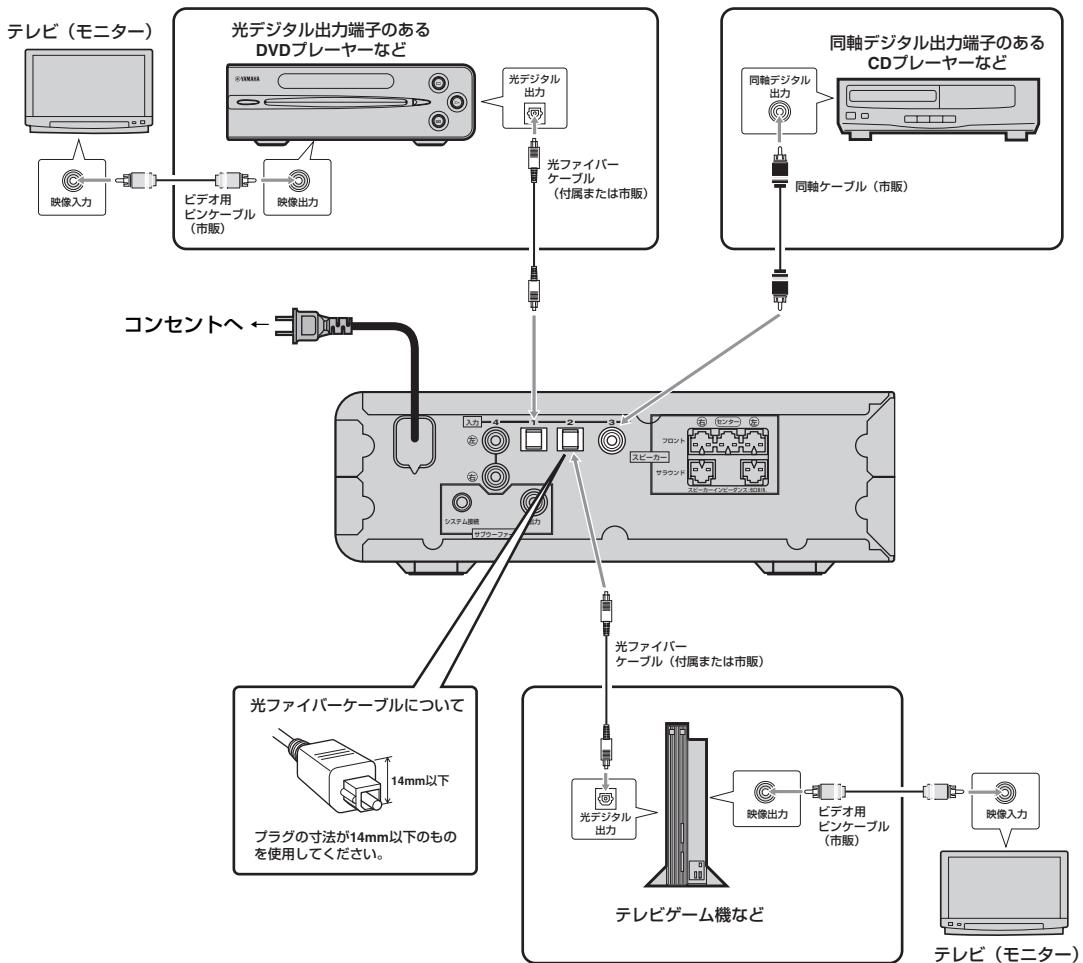
ご注意

- AVアンプおよびサブウーファーの電源コードは、すべてのケーブル接続が完了してから接続してください。
- スピーカー側の端子の形状は、スピーカーにより異なります。付属のスピーカーケーブルをスピーカーに接続する際は、ご使用のスピーカーに付属している取扱説明書をご参照ください。
- スピーカーおよびスピーカーケーブルには、極性(+)、(-)があります。付属のスピーカーケーブルをスピーカーに接続する際は、カラーチューブがついている芯線をスピーカーの+極に、もう一方の芯線を-極に接続してください。詳しくは、ご使用のスピーカーに付属している取扱説明書をご参照ください。
- サブウーファー用ピンケーブルは、サブウーファーに付属しているものをご使用ください。システム接続ケーブルは、本機とシステム接続対応のサブウーファーでシステム接続を行う場合のみ必要になります。詳しくは、ご使用のサブウーファーに付属している取扱説明書をご参照ください。
- ケーブルプラグを無理にスピーカー端子に差し込まないでください。ケーブルプラグやスピーカー端子を破損する原因となります。

外部機器を接続する

AVC-S35 は、4つの入力端子（光デジタル×2、同軸デジタル×1、アナログ×1）を備えています。接続の際は、外部機器の出力端子をご確認のうえ、正しいケーブルをご使用ください。

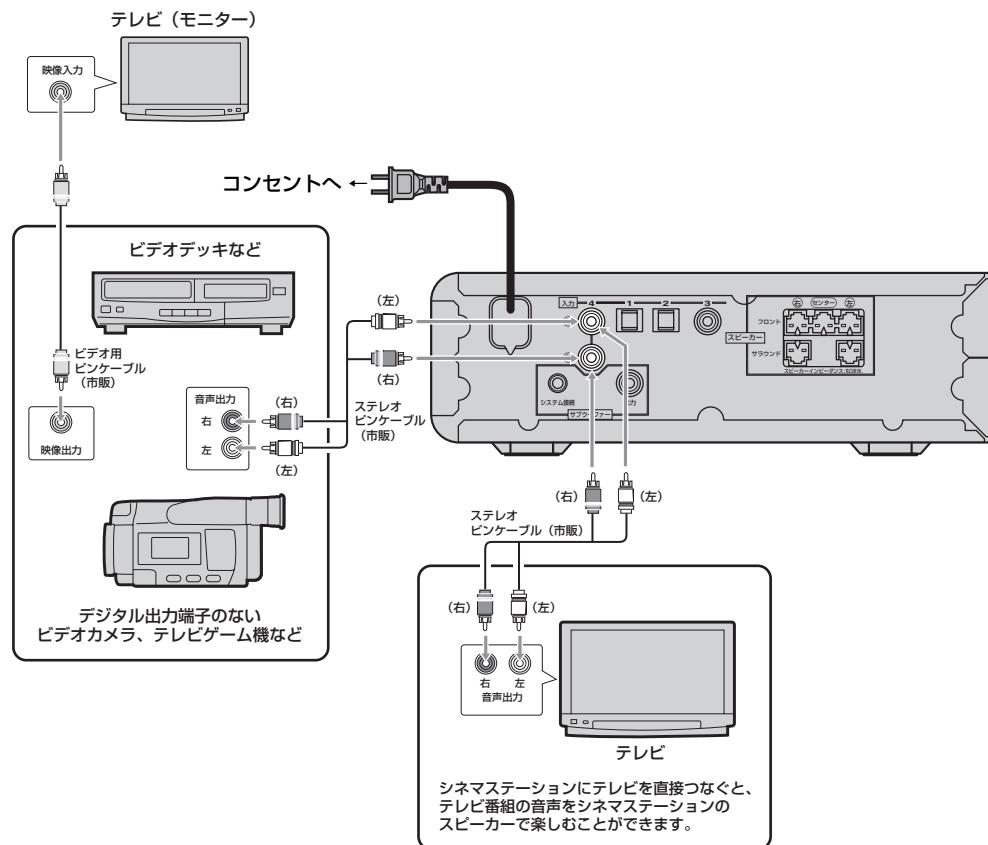
■ デジタル接続



ご注意

- AVアンプおよび外部機器の電源コードは、すべてのケーブル接続が完了してから接続してください。
- 本機のデジタル端子はPCM、ドルビーデジタル、DTS、AAC信号方式に対応しています。
- 本機の光デジタル端子はEIAJ規格に準拠しています。市販の光ファイバーケーブルを使用して外部機器を接続する際は、EIAJ規格に準拠したものをご使用ください。
- 本機のデジタル端子は、サンプリング周波数が96kHz以下のデジタル信号に対応しています。

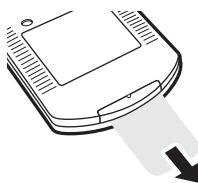
■ アナログ接続



ご注意

AVアンプおよび外部機器の電源コードは、すべてのケーブル接続が完了してから接続してください。

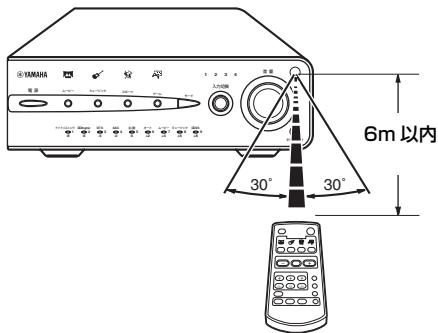
リモコンを使用する



リモコンから絶縁シートを引き抜く。

リチウム電池はあらかじめリモコンに入っています。絶縁シートを引き抜くだけで、リモコンを使用できます。

リモコンの操作範囲



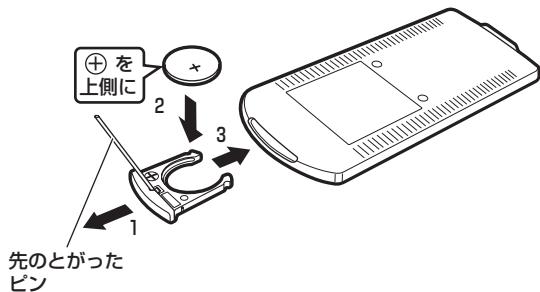
リモコンで本機を操作する際は、リモコンの赤外線送信部を本体のリモコン受光窓に向けます。リモコン操作が可能な範囲は、本体から 6m 以内で正面から左右に 30 度以内です。

ご注意

- リモコンに水や飲み物などをこぼさないようご注意ください。
- リモコンを落としたり、リモコンに強い衝撃を与えたまうようご注意ください。
- リモコンを以下のような場所に放置しないでください。
 - 気温・湿度が高い場所（ヒーターの近くや風呂場など）
 - 極端に気温が低い場所
 - ほこりっぽい場所

■ リモコンの電池を交換する

リモコンの電池が消耗すると、リモコンで本機を操作できる距離が極端に短くなります。このような場合、早めに新しい電池と交換してください。



1 先のとがったピンなどを使って電池ホルダーを引き出す。

2 古いリチウム電池を電池ホルダーから取り出し、新品の電池を入れる。
+（プラス）を上向きにして電池を入れます。

3 電池ホルダーをリモコンに装着する。

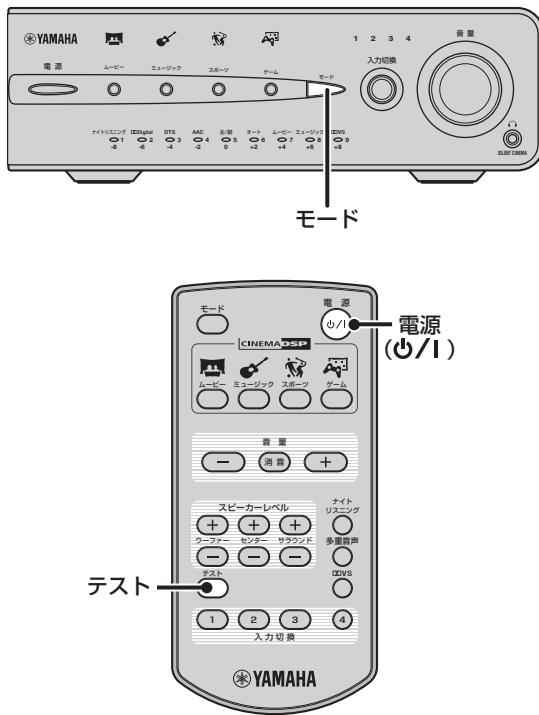
ご注意

リチウム電池の取扱いを誤ると、発熱、発火、破裂などの原因になることがあります。使用中や交換する際は、以下の点に十分ご注意ください。

- CR2025 型をご使用ください。
- 充電しないでください。
- 粗雑に扱ったり、分解したりしないでください。
- 電池を交換する際は、極性（プラスとマイナス）の向きを正しく装着してください。
- 直射日光のある場所など、高温になる場所に放置しないでください。
- お子様や幼児の手の届かない場所に保管してください。誤って飲み込んでしまった場合などは、ただちに医師の診断を受けてください。
- 液漏れしている場合はただちに電池を処分してください。この際、液が皮膚や衣服に付着すると火傷するおそれがありますので、取扱いには十分ご注意ください。誤って付着してしまった場合は、ただちに水道水で洗浄し医師の診断を受けてください。
- 使用済みの電池を廃棄する際は、テープなどで絶縁し、地域の条例に従って火気のない場所に処分してください。

スピーカーの構成を設定する

スピーカーを初めて接続したときや、使用しているスピーカーの構成を変更したときは、スピーカーの本数および種類に応じて、スピーカー構成の設定を変更してください。これにより、環境に応じた最適な再生が可能になります。



1 電源 (ON/OFF) キーを押す。

本機の電源がオンになり、フロントパネルの各種インジケーターが点灯します。



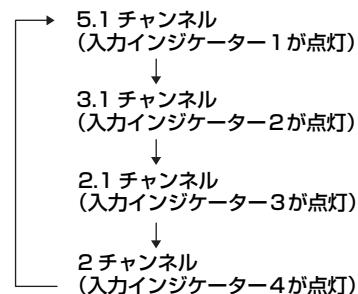
本機はオートスリープ機能（省エネルギー機能）を備えています。電源がオンの状態で長時間（約 24 時間）にわたって操作しなかった場合、節電のため、本機は自動的にスタンバイモードになります。

2 テストキーを押す。

シネマ DSP インジケーターが点滅し、各スピーカーから約 2.5 秒ずつテストトーンが output されます。

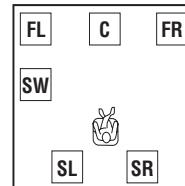
3 本体フロントパネルのモードキーを押して、スピーカー構成を選択する。

モードキーを押すたびに以下のように切りかわります。



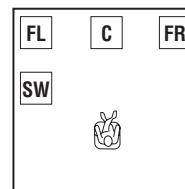
5.1 チャンネル：

フロント左／右 (FL/FR)、センター (C)、サウンド左／右 (SL/SR)、サブウーファー (SW) を接続している場合に選択



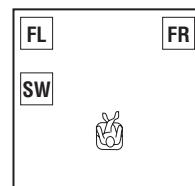
3.1 チャンネル：

フロント左／右 (FL/FR)、センター (C)、サブウーファー (SW) を接続している場合に選択



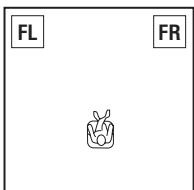
2.1 チャンネル：

フロント左／右 (FL/FR)、サブウーファー (SW) を接続している場合に選択



2 チャンネル：

フロント左／右（FL/FR）を接続している場合に選択



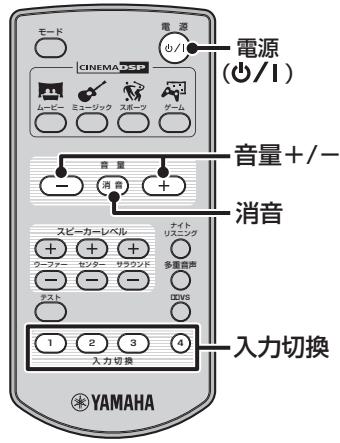
2 チャンネルは、大きいサイズのステレオスピーカーを接続する場合に選択してください。この場合、LFE などの低音信号はフロントスピーカーから出力されます。

4 設定を終了するには、テストキーを押す。

操作する

さっそく使ってみましょう！

必要な接続（→ 6～8 ページ）、リモコンの準備（→ 9 ページ）、スピーカー構成の設定（→ 10 ページ）が完了したら、まずは外部機器の音声を再生してみましょう！



1 電源（/|）キーを押す。

本機の電源がオンになり、フロントパネルの各種インジケーターが点灯します。

💡 本機はオートスリープ機能（省エネルギー機能）を備えています。電源がオンの状態で長時間（約 24 時間）にわたって操作しなかった場合、節電のため、本機は自動的にスタンバイモードになります。

2 再生したい AV 機器の入力切換キー（1～4）を押す。

入力切換キーの番号（1～4）はリアパネルの入力端子の番号に対応しています。たとえば、入力端子（1）にDVDプレーヤーを接続している場合、入力切換キー（1）を押してDVDプレーヤーを選択します。

3 選択した外部機器で再生を開始する。

外部機器の操作については、ご使用の機器に付属している取扱説明書をご参照ください。

4 音量+/-キーを押して音量を調節する。

一時的に音を消すには、消音キーを押します。消音中は入力インジケーター（選択中の入力以外）が点滅します。消音を解除してひとつの音量に戻すには、消音キーを再度押します。

さらに音声を楽しむために・・・

映画館やコンサートホールのような臨場感を楽しみましょう！

→ 「臨場感ある音声を楽しむ（シネマ DSP）」（→ 13 ページ）

CDなどのステレオ音声を仮想マルチチャンネルで楽しめよう！

→ 「ステレオ音声をマルチチャンネルで楽しむ（ドルビープロロジックII）」(→ 13ページ)

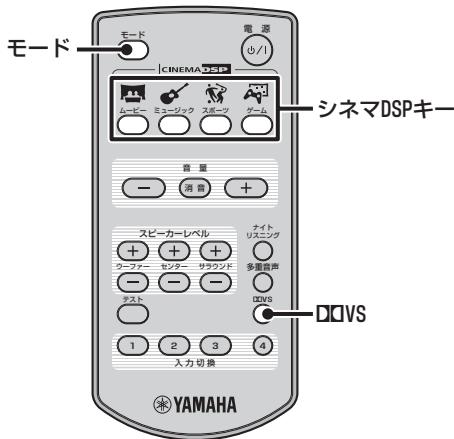
ドルビーバーチャルスピーカーでサラウンドを楽しみましょう！

→ 「ドルビーバーチャルスピーカーを設定する (DVS)」

音響効果を選択する

本機は音声を楽しむためのさまざまな機能を備えています。実際に聴いてみて、再生する音声に適している機能をご使用ください。

※ 本機はそれぞれの入力（1～4）で選択した設定を記憶します。入力を切りかえると、設定も前回選択していたものに切りかわります。



■ 臨場感ある音声を楽しむ（シネマ DSP）

シネマ DSP を設定すると、臨場感ある音響効果をマルチチャンネルでお楽しみいただけます。

お好みのシネマ DSP キーを押す。

選択したシネマ DSP のインジケーターが点灯します。各シネマ DSP の特長は以下のとおりです。

■ ムービー

豊かで映画館さながらの臨場感をつくりだします。

◆ ミュージック

ロックやジャズなどのライブコンサート会場の臨場感をつくりだします。

◆ スポーツ

解説者は中央に、歓声や場内の雰囲気は周囲に大きく広がり、スポーツ観戦の醍醐味を味わうことができます。

◆ ゲーム

ゲームサウンドに奥行きとサラウンド感を与え、ゲームの迫力を増します。

本来の音に戻すには、モードキーを押してオートを選択するか、選択中のシネマ DSP キーを押します。

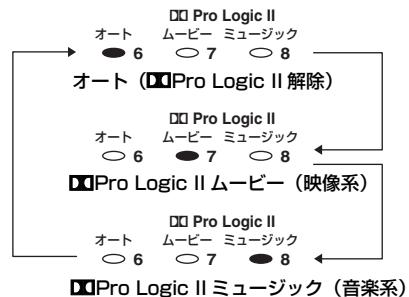
※ スピーカー構成（→ 10 ページ）が 5.1 チャンネルではない場合、DVS も自動的に選択されます（ヘッドホン接続時を除く）。この際、シネマ DSP を解除せずに、DVS を解除することはできません。

■ ステレオ音声をマルチチャンネルで楽しむ（ドルビープロロジック II）

ドルビープロロジック II を設定すると、CD などのステレオ音声を 5.1 チャンネル音声としてお楽しみいただけます。

モードキーを押してお好みのドルビープロロジック II モードを選択する。

モードキーを押すたびに以下のように切りかわります。



※

- スピーカー構成（→ 10 ページ）が 5.1 チャンネルではない場合、ドルビープロロジック II ミュージックモードを選択できません（ヘッドホン接続時を除く）。また、ムービーモードを選択した場合は DVS も自動的に選択されます。この際、ドルビープロロジック II を解除（オートを選択）せずに、DVS を解除することはできません。
- 入力がステレオ音声以外の場合、ドルビープロロジック II（ムービー、ミュージック）を選択できません。

■ ドルビーバーチャルスピーカーを設定する (DVS)

ドルビーバーチャルスピーカー (DVS) を設定すると、サラウンドスピーカーがない状態で、5.1 チャンネル音声のような豊かな臨場感をお楽しみいただけます。

■ DVS キーを押す。

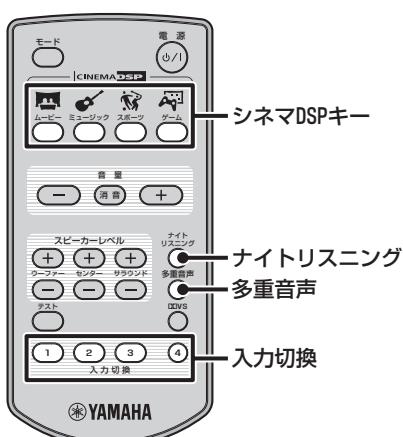
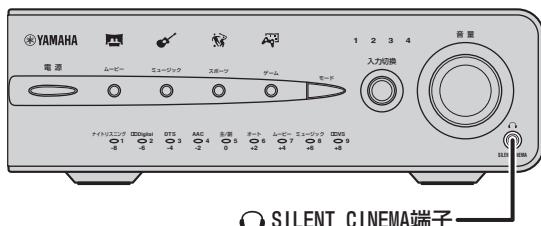
ステータスインジケーター (DVS) が点灯します。DVS を解除するには、DVS キーを再度押します。



- スピーカー構成 (→ 10 ページ) が 5.1 チャンネルの場合、DVS は機能しません。サラウンドスピーカーチャンネルの音声は、実際のサラウンドスピーカーから出力されます。
- ステレオ信号を入力している際に DVS を設定すると、ドルビープロロジック II ムービーモードも自動的に選択されます。
- モノラル信号またはモノラル二重音声信号を入力している際は、DVS は機能しません。
- 本機の SILENT CINEMA 端子にヘッドホンが接続されている場合、DVS は機能しません。

いろいろな方法で音声を楽しむ

ヘッドホンや小さな音量設定でも音響効果を存分にお楽しみいただけます。



■ ヘッドホンで音声を楽しむ (サイレントシネマ)

ヘッドホンを本機の $\textcircled{1}$ SILENT CINEMA 端子に接続すると、サイレントシネマ機能により 5.1 チャンネルの臨場感をヘッドホンで擬似的に再現して音声をお楽しみいただけます。

* 「サイレントシネマ」はヤマハ株式会社の登録商標です。

1 ヘッドホンを $\textcircled{1}$ SILENT CINEMA 端子に接続する。

2 入力切換キーを押して入力を選択し、外部機器で再生を開始する。

3 必要に応じて、シネマ DSP キーを押して使用するシネマ DSP を選択する。

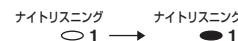
- ※
- 低音域 (LFE チャンネル) の信号は別のチャンネル信号に変換されて出力されます。
 - シネマ DSP を設定しない場合、ステレオ音声はステレオ再生になります。マルチチャンネル音声は擬似的に 5.1 チャンネルで再生されます。
 - 本機の $\textcircled{1}$ SILENT CINEMA 端子にヘッドホンが接続されている場合、スピーカーから音声は出力されません。
 - 本機の $\textcircled{1}$ SILENT CINEMA 端子にヘッドホンが接続されている場合、DVS は機能しません。

■ 小音量で音声を楽しむ (ナイトリスニング)

ナイトリスニングを設定すると、大きな効果音を抑えて会話やウォーカル音声などをはっきりと聞こえるように再生することができます。

1 ナイトリスニングキーを押す。

ステータスインジケーター (ナイトリスニング) が点灯します。



2 入力切換キーを押して入力を選択し、外部機器で再生を開始する。

ナイトリスニングを解除するには、ナイトリスニングキーを再度押します。

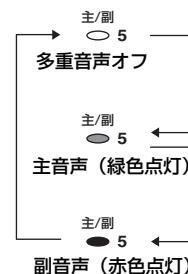
※

- ナイトリスニング設定時に、シネマ DSP や DVS (スピーカー構成が 5.1 チャンネル以外の場合) を設定すると、小音量で臨場感のある音声をお楽しみいただけます。
- 本機の $\textcircled{1}$ SILENT CINEMA 端子にヘッドホンが接続されている場合、ナイトリスニングは機能しません。

■ 主音声／副音声を切りかえる

BS / 地上波デジタル放送などの AAC 信号で使われている、モノラル二重音声入力時に、本機が出力する音声 (主音声／副音声) を選択します。

多重音声キーを押して出力する音声を選択する。
多重音声キーを押すたびに以下のように切りかわります。



※

- 入力がモノラル二重音声以外の場合、多重音声の設定は出力に影響しません。
- 多重音声がオフの場合、主音声が左チャンネルから、副音声が右チャンネルから出力されます。
- モノラル二重音声を入力している場合、ドルビープロロジック II は選択できません。

細かく調節する

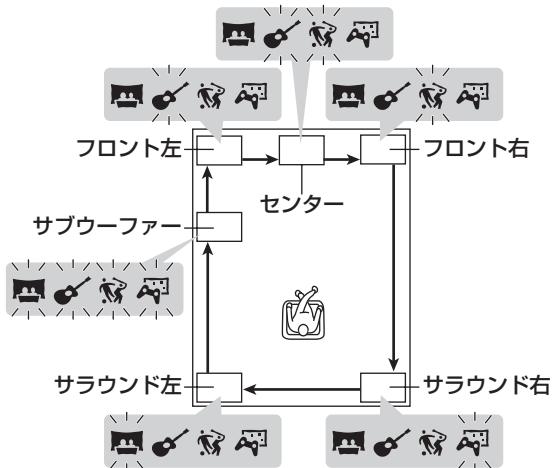
スピーカーバランスを調節する

スピーカーバランスは、視聴位置において、各スピーカーから聞こえる音量が同じになるように調節します。初めてスピーカーバランス調節する場合は、テストトーンを使って調節することをおすすめします。



- ・本機の SILENT CINEMA 端子にヘッドホンが接続されていると、スピーカーバランスを調節することができません。
- ・スピーカーバランスは、スピーカー構成（→ 10 ページ）で選択されているスピーカーのみ調節できます。たとえば、2.1 チャンネルの場合、フロント左／右とサブウーファーの音量レベルのみ調節できます。
- ・スピーカーバランスの調節は、普段視聴する位置からリモコン操作で実行してください。

■ テストトーンでスピーカーバランスを調節する



スピーカー構成（→ 10 ページ）が 5.1 チャンネルの場合のみ、上図の順にテストトーンが出力されます。5.1 チャンネル以外の場合は、選択されていないスピーカーの順番をスキップします。

1 テストキーを押す。

シネマ DSP インジケーターが点滅し、各スピーカーから約 2.5 秒ずつテストトーンが出力されます。

2 調節したいスピーカーのテストトーンが出力されている間に、音量+/-キーを押して該当スピーカーの音量を調節する。

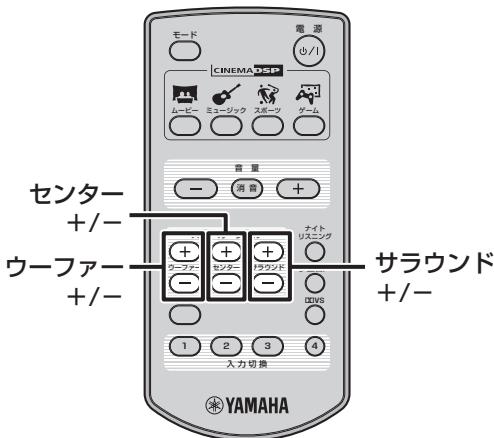
3 設定を終了するには、TEST キーを押す。



- ・音量レベルは、ステータスインジケーターで詳細を確認できます（→ 18 ページ）。
- ・調節中は該当スピーカーのテストトーンのみが出力されます。
- ・調節範囲は以下のとおりです。
 - −フロント左／右：−6（最小）～±0dB（最大）
 - −センター：−6（最小）～+6dB（最大）
 - −サラウンド左／右：−6（最小）～+6dB（最大）
 - −サブウーファー：−8（最小）～+8dB（最大）
- ・すべてのスピーカーの音量を初期状態（0dB）に戻すには、テストトーン出力中に本体フロントパネルの入力切換キーを押します。

■ 再生中にスピーカーレベルを調節する

音声を再生中にスピーカーレベルを調節する場合は、以下の手順を行ってください。



再生中に目的のスピーカーレベルキーを押す。

センタースピーカーの音量を調節するには：
センター+ / -キーを押す。

サラウンドスピーカーの音量を調節するには：
サラウンド+ / -キーを押す。

サブウーファーの音量を調節するには：
ウーファー+ / -キーを押す。



- 上記の手順でスピーカーバランスを調節する前に、テストトーンを使用して調節しておくことをおすすめします（→ 16 ページ）。
- 音量レベルは、ステータスインジケーターで詳細を確認できます（→ 18 ページ）。
- 調節範囲は以下のとおりです。
 - センター：- 6 (最小) ~ + 6dB (最大)
 - サラウンド：- 6 (最小) ~ + 6dB (最大)
 - サブウーファー：- 8 (最小) ~ + 8dB (最大)
- 再生中にサラウンドスピーカーの音量を左／右個別に調節することはできません。テストトーンを使って調節してください（→ 16 ページ）。

その他の情報

ステータスインジケーターの表示

ステータスインジケーターでは、音量レベルや入力信号の種類を確認することができます。

■ 音量レベルの表示

各スピーカーチャンネルの音量レベル表示（全体音量との差、単位：dB）

インジケーター (緑色)	1 -8	1 -8	2 -6	2 -6	3 -4	3 -4	4 -2	4 -2	5 0
フロント左／右	—	—	-6	-5	-4	-3	-2	-1	±0
センター、サラ ウンド左／右	—	—	-6	-5	-4	-3	-2	-1	±0
サブウーファー	-8	-7	-6	-5	-4	-3	-2	-1	±0

インジケーター (緑色)	5 0	6 +2	6 +2	6 +4	7 +4	7 +6	8 +6	8 +8	9 +8
フロント左／右	—	—	—	—	—	—	—	—	—
センター、サラ ウンド左／右	+1	+2	+3	+4	+5	+6	—	—	—
サブウーファー	+1	+2	+3	+4	+5	+6	+7	+8	—

■ 入力信号の表示

本機は入力した音声信号を自動的に認識します。手動でほかの信号に切りかえることはできません。各信号について詳しくは「用語解説」(→ 21 ページ) をご参照ください。

 2 DTS AAC 主/副 オート 6 ドルビーデジタル信号の入力時

 2 DTS AAC 主/副 オート 6 DTS 信号の入力時

 2 DTS AAC 主/副 オート 6 AAC 信号の入力時

 2 DTS AAC 主/副 オート 6 アナログ信号または PCM 信号の入力時



シネマ DSP またはドルビープロロジック II のいずれかのモードが選択されている場合、「オート」は消灯します。

故障かな？と思ったら

使用中に本機が正常に作動しなくなった場合は、まず下記の点をご確認ください。下記以外で異常が認められた場合や下記の対処を行っても正常に作動しない場合は、本機の電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてから、お買上げ店または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点までお問い合わせください。

症状	原因	対策
電源を入れてもすぐに切れる	電源コードが正しく接続されていない。	電源コードが正しくコンセントに接続されていることをご確認ください。
	スピーカーケーブルがショートした。	すべてのスピーカーケーブルが正しく接続されていることをご確認ください。 (→ 6 ページ)
	本機が落雷や過度の静電気など外部からの強い電気ショックを受けた。	本機の電源をスタンバイにして電源コードを抜いてください。約 30 秒経ってから電源コードをコンセントに再接続して、電源をオンにしてください。
スピーカーから音が出ない	音量が最小に設定されている。	音量を調節してください。 (→ 12 ページ)
	消音機能を使用している。	消音を解除してください。 (→ 12 ページ)
	入力が正しく選択されていない。	正しい入力を選択してください。 (→ 12 ページ)
	ケーブルが正しく接続されていない。	すべてのケーブルが正しく接続されていることをご確認ください。 (→ 6 ~ 8 ページ)
片側のチャンネルの音がほとんど出ない	ケーブルが正しく接続されていない。	すべてのケーブルが正しく接続されていることをご確認ください。 (→ 6 ~ 8 ページ)
フロントスピーカー以外の音が出ない	ステレオ再生を設定している。	シネマ DSP または別の音場を選択してください。 (→ 13 ページ)
	ドルビーサラウンドやドルビーデジタル、DTS、AAC 信号でエフェクト信号が含まれていないソースを再生している。	別の音場を選択してください。 (→ 13 ページ)
	スピーカー構成が正しく選択されていない (2.1 チャンネルまたは 2 チャンネルが選択されている)。	使用するスピーカーの本数および種類に応じて、スピーカー構成の設定を変更してください。 (→ 10 ページ)
センタースピーカーの音が出ない	センタースピーカーの音量が最小に設定されている。	センタースピーカーの音量を調節してください。 (→ 16 ページ)
	ドルビーデジタル、DTS、または AAC にセンターチャンネル信号が含まれていない。	この場合、センタースピーカーの音は出力されません。
	スピーカー構成が正しく設定されていない (2.1 チャンネルまたは 2 チャンネルが選択されている)。	使用するスピーカーの本数および種類に応じて、スピーカー構成の設定を変更してください。 (→ 10 ページ)
サラウンドスピーカーの音が出ない	サラウンドスピーカーの音量が最小に設定されている。	サラウンドスピーカーの音量を調節してください。 (→ 16 ページ)
	スピーカー構成が正しく設定されていない (5.1 チャンネルが選択されていない)。	使用するスピーカーの本数および種類に応じて、スピーカー構成の設定を変更してください。 (→ 10 ページ)
サブウーファーから音が出ない	サブウーファーの音量が最小に設定されている。	サブウーファーの音量を調節してください。 (→ 16 ページ)
	サブウーファー用ピンケーブルまたはシステム接続ケーブルが正しく接続されていない。	これらのケーブルが正しく接続されていることをご確認ください。 (→ 6 ページ)
	スピーカー構成が正しく設定されていない (2 チャンネルが選択されている)。	使用するスピーカーの本数および種類に応じて、スピーカー構成の設定を変更してください。 (→ 10 ページ)
	LFE などの低音信号が含まれていないソースを再生している。	適正範囲を超える信号はサブウーファーから出力されません。

症状	原因	対策
音が不良である（雑音が出る）	ケーブルが正しく接続されていない。	すべてのケーブルが正しく接続されていることをご確認ください。 (→ 6 ~ 8 ページ)
本機が正常に作動しない	本機が落雷や過度の静電気など、外部からの強い電気ショックを受けた。	本機の電源をスタンバイにして電源コードを抜いてください。約 30 秒経ってから電源コードをコンセントに再接続して、電源をオンにしてください。
設定内容（スピーカー構成、スピーカーバランスなど）が初期化されている	長時間にわたって電源供給が遮断されていた（電源コードがコンセントから抜けていた）。	もう一度設定しなおしてください。
市販の外部タイマーで本機の電源がオンにならない（スタンバイに切りかわる）	外部タイマーで本機の電源を遮断した際、本機がスタンバイ状態だった。	外部タイマーで本機の電源を入れた場合、本機は電源が遮断されたときの状態に戻ります。この際、本機の電源をオン（再生が可能な状態）にするには、外部タイマーにて電源を遮断する際に、本機をオン状態にしておいてください。
周囲に設置しているデジタル機器や高周波機器から雑音が出る	本機とデジタル機器または高周波機器の位置が近すぎる。	本機をそれらの機器から離して設置してください。
リモコンで AV アンプ本体を操作できない	リモコンの操作範囲外から操作しようとしている。	リモコンの操作範囲については、「リモコンを使用する」(→ 9 ページ) をご参照ください。
	本機のリモコン受光部に直射日光や照明があたっている。	照明または本機の向きを変更してください。
	電池が消耗している。	新しい電池と交換してください。(→ 9 ページ)

用語解説

AAC (Advanced Audio Coding)

アドバンスト オーディオ コーディング
MPEG-2 オーディオ規格に含まれるデジタル圧縮オーディオ信号です。BS／地上波デジタル放送で採用されています。モノラル音声から最大で7チャネル音声までを効率良く圧縮して記録、伝送できます。

サイレントシネマ

ヘッドホンでマルチスピーカーによる音場プログラムを擬似的に再現するための、ヤマハ独自のシステムです。音場プログラムごとにヘッドホン用の設定値が用意されているため、自然で立体感あふれる音場プログラムをヘッドホンでもお楽しみいただけます。

サンプリング周波数

アナログ音声信号をデジタル信号化する際に、1秒間にサンプリング（信号の大きさを数値に置き換えること）を行う回数を指します。再生できる周波数帯はサンプリング周波数で決まるので、サンプリング周波数が高いほど再生可能な音域が広がります。

シネマ DSP

実測データに基づいて作成した音場データと各種サラウンドデコーダーを組み合わせた映像ソース用音場プログラムの総称です。前方方向に奥行きと広がりを持たせるプレゼンス音場と、サラウンド側に包围感と広がりを持たせるサラウンド音場の2つの音場処理を主としたヤマハ独自の音場創生技術です。モノラルから6.1チャネルフォーマットまであらゆる音源やサラウンドフォーマットに音場効果を加えて再現することが可能です。

チャンネル (ch)

出力される音域や特性によって区別された音声の種類です。

例) 5.1 チャンネル

- フロントスピーカー [L(1ch)/R(1ch)]
- センタースピーカー (1ch)
- サラウンドスピーカー
[L(1ch)/R(1ch)]
- サブウーファー [1ch × 0.1*=0.1ch]

* 低音の出力を補うサブウーファーは、周波数範囲が他のスピーカーに比べて狭いので、0.1チャネルと扱われます。

DTS (Digital Theater Systems)

デジタル シアター システムズ
Digital Theater Systems 社が開発したデジタル・サラウンド・システムです。最大5.1チャネルのサウンドが再生でき、圧縮率が低いため、リアルな音響効果が得られます。

ドルビーデジタル

ドルビー社が開発したデジタル・サラウンド・システムです。完全に独立したマルチチャネル音声を再生することができます。全帯域の音声成分を持つフロントの3チャネル（フロントL/R、センター）と、サラウンドのステレオ2チャネル、低音域専用のLFEチャネルの合計5.1チャネルで構成されます。サラウンドがステレオ2チャネルで収録されているため、音の移動感、木々のざわめきや波の音などの繊細な環境音もきめ細かく再現できます。

DVS (Dolby Virtual Speaker)

ドルビー社が開発したデジタル・サラウンド・システムです。従来のバーチャルスピーカー技術よりも現実味のあるサラウンド空間を創り出します。

ドルビープロロジック II

2チャネルで記録された音声を信号処理し、優れた分離感を保ったまま5.1チャネル音声に変換するサラウンドシステムです。映画用のMOVIEモード、音楽などのステレオソース用のMUSICモードが用意されています。従来の2チャネル音声（モノラル音声を除く）だけで記録された古い映画も、5.1チャネルの迫力ある音声で楽しめます。

PCM (Pulse Code Modulation)

パルス コード モジュレーション
圧縮せずにデジタル信号に置き換えた信号です。CDでは、44.1kHz/16bitで記録されているのに対し、DVDでは48kHz/16bit～192kHz/24bitで記録されているので、CDよりも高音質で再生できます。また、この信号を、情報量を損なうことなく圧縮したものをパックトPCM(PPCM)といいます。

主な仕様

アンプユニット

定格出力（フロント、センター、サラウンド）	30W × 5 (1kHz, 6Ω, 1%THD)
実用最大出力（フロント、センター、サラウンド）	35W × 5 (1kHz, 6Ω, 10%THD)
入力感度	200mV
ヘッドホン出力／インピーダンス	125mV / 8Ω (1kHz, 200mV)
電源電圧／周波数	AC100V, 50/60Hz
消費電力	44W
待機時消費電力	0.4W 以下
寸法（幅×高さ×奥行き）	215 × 70 × 305mm
質量	2.6kg

仕様および外観は改良のため予告なく変更することがあります。

本機は「JIS C 61000-3-2」適合品です。

JIS C 61000-3-2 適合品とは、日本工業規格「電磁両立性－第3-2部：限度値－高調波電流発生限度値（1相当あたりの入力電流が20A以下の機器）」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

著作権

ディスクを無断で複製、放送、公開演奏、レンタルすることは法律により禁じられています。

SILENTTM
CINEMA

「サイレントシネマ／SILENT CINEMA」は、ヤマハ株式会社の登録商標です。

 DOLBY DIGITAL VIRTUAL SPEAKER

ドルビーラボラトリーズからの実施権により製造されています。「ドルビー」、「PRO LOGIC」およびダブルD記号TMは、ドルビーラボラトリーズの商標です。

 DTS SURROUND

DTS および DTS デジタルサラウンドはデジタルシアターシステムズの登録商標です。



AAC ロゴマークTMはドルビーラボラトリーズの商標です。以下はパテントナンバーです。

08/937,950	5,633,981	5,227,788	5,299,239
5848391	5,297,236	5,285,498	5,299,240
5,291,557	4,914,701	5,481,614	5,197,087
5,451,954	5,235,671	5,592,584	5,490,170
5,400,433	07/640,550	5,781,888	5,264,846
5,222,189	5,579,430	08/211,547	5,268,685
5,357,594	08/678,666	08/211,547	5,375,189
5,752,225	98/03037	5,703,999	5,581,654
5,394,473	97/02875	08/557,046	05-183,988
5,583,962	97/02874	08/894,844	5,548,574
5,274,740	98/03036	5,299,238	08/506,729

音楽を楽しむエチケット



楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を充分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わずところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも1つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハホットラインサービスネットワークは、本機を未永く、安心してご愛用いただくためのものです。
サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

ヤマハAV製品の機能や取り扱いに関するお問い合わせ

■ ヤマハオーディオ&ビジュアルホームページ

お客様から寄せられるよくあるご質問をまとめており、ご参考にしてください。

<http://www.yamaha.co.jp/audio/>

■ お客様ご相談センター

ナビダイヤル (全国共通)  0570-01-1808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHSからは下記番号におかけください。
TEL (053)460-3409

FAX (053)460-3459
〒430-8650 静岡県浜松市中沢町10-1

受付日：月～土曜日(祝日およびセンターの休業日を除く)
受付時間：10:00～12:00、13:00～18:00

ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問い合わせ

■ ヤマハ電気音響製品修理受付センター

ナビダイヤル (全国共通)  0570-012-808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

FAX (053)463-1127

受付日：月～土曜日(祝日およびセンターの休業日を除く)
受付時間：月～金曜日 9:00～19:00 土曜日 9:00～17:30

修理お持ち込み窓口

受付日：月～金曜日(祝日および弊社の休業日を除く)
受付時間：9:00～17:45

北海道 〒064-8543 札幌市中央区南10条西1丁目1-50
ヤマハセンター内
FAX (011)512-6109

首都圏 〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1-1
京浜トラックターミナル内14号棟A-5F
FAX (03)5762-2125

浜松 〒435-0016 浜松市和田町200 ヤマハ(株)和田工場内
FAX (053)462-9244

名古屋 〒454-0058 名古屋市中川区玉川町2丁目1-2
ヤマハ(株)名古屋倉庫3F
FAX (052)652-0043

大阪 〒564-0052 吹田市広芝町10-28
オーク江坂ビルディング2F
FAX (06)6330-5535

九州 〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2丁目11-4
FAX (092)472-2137

*名称、住所、電話番号、URLなどは変更になる場合があります。

● 保証期間

お買い上げ日から1年間です。

● 保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

● 保証期間が過ぎているとき

修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

● 修理料金の仕組み

技術料 故障した製品を正常に修復するための料金です。
技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。

部品代 修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。

出張料 製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。
別途、駐車料金をいただく場合があります。

● 補修用性能部品の最低保有期間

補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

● 製品の状態は詳しく

サービスをご依頼されるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。
※ 品番、製造番号は製品の背面もしくは底面に表示しております。

● スピーカーの修理

スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。

● 摩耗部品の交換について

本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。

本機を未永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをおすすめします。

摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ電気音響製品修理受付センターへご相談ください。

摩耗部品の一例

ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

※ このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

永年ご使用の製品の点検を！



こんな症状はありませんか？

- 電源コード・プラグが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズか変形がある。
- 製品に触るとピリピリと電気を感じる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常・故障がある。



すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、
必ず販売店に点検をご依頼ください。

なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

ヤマハ株式会社

〒430-8650 浜松市中沢町10-1

